

# 全体授業研究会 振り返りより

- 5年2組(7月10日) -

白島小学校 研修部

## 1 問いを立てるとは

- 問いを立てる難しさを感じた。
- 子どもの中から問い・疑問が生まれる授業を。
- どうして、「社会の仕組み」を教える授業を研究授業にしないといけないのか。「どのように。」を生かした「なぜ。」の授業では、いけないのか。

## 2 明日の授業に生かせること

### (1) 子どもの思考を促す発問の仕方

- 児童の発言に対する的確な切り返しが児童の思考を深めたり、掘り下げたりすることに有効だと意識した。
- 「切り返し」、「言い直し」が思考力・表現力を育てるとわかった。
- 子どもが生き生きと授業に参加しており、常に、子どもに考えさせる発問をされていた。

### (2) 発言をつなぐ

- 児童に、タイミングよく言い直し・言い換え、表現のし直しを求めることが時には必要である。児童が考えたことの筋道を立て、思考をより確かなものにするということもあると再認識した。
- 子ども同士で付け加えたり、「似ているんだけど。」と言ったりして、つないでいると感じた。
- 児童同士のつながりのある発言が多く、自信をもって発言できるように工夫がされていた。

## 3 研究協議会について

- 欠席者等で人数が少ない場合は、人数調整して欲しい。

## 4 その他

- 「漢方未来米」という教材がおもしろかった。
- 子どもが興味をもつ教材の開発の大切さが分かった。
- 教師自身のテーマ、単元についての学びの姿勢がすばらしい。
- 子どもの反応を見ながらつくっていく授業となった。
- 本時の後半の授業が見たかった。
- 社会科の学習に取り組むために、積み上げていく資料の読み方、調べ学習の仕方など、継続的に指導を進めていく必要があると思った。
- いい教材を見つけられました。50数時間かけて取り組むにも値します。まず、古川さんの音声があったことに驚きました。アポを取るのに漫画の中の記述や出版社関係からあたりをつけられたのか、ネットの写真から現地を割り出し突撃取材されたの

か、など思いましたが、高島屋のバイヤー関係から接触されたと聞いて、なるほどそのルートがあったかと感心しました。私は、研究会後のこういったコメントはめったに書かないのですが、久々に書く気にさせてくれました。先生の情熱、意欲、教材選択のセンス、授業の中の遊びにこだわる精神、児童のいじり方&一人一人への絶妙な配慮、心の教育（カタログを誰が用意したか伝えたとき、児童からすぐさま出てきた感謝の言葉に顕著に表れている。）等々、天性の素質に努力を重ねて磨き上げてこられたこれまでの道程に敬意を表します。それにしても、こういった取材調査のために旅費や費用が経費で請求できたら、どんなにか社会料がさかんになることでしょう。漢方未来米2kg、この後どうされますか。食べてみたい。

## 徒然なるままに…2 お付き合いください！

今回は、5年生の提案でした。先生方、大変お疲れ様でした。高学年ブロックの、連日連夜、遅くまで指導案検討されていた姿から、高学年の結束の強さを感じました。

今回は、「問いの立て方」に注目してみました。今回の授業は、「漢方未来米」が売れているわけを考えることを通して、消費者のニーズに対応するための生産・販売方法の工夫について考えることがねらいだと考えられます。言い換えれば、「漢方未来米」という高価な米の売り上げを上げる古川さんの戦略について考えることがねらいです。

そこで、設定されたのが、「こんなに高い米がなぜ売れるのだろうか。」という問いでした。他の米と比べてかなり高価な米である事実と売れているという事実から矛盾が生じ、疑問へつながるという仕組みになっています。

では、この問いから、何をどう考えればいいのでしょうか。

もし、「米の質・よさ」に着目すれば、安全で、おいしくて、健康にというように、消費者のニーズに応える米を生産しているからという前時の学習になります。

一方、「売る戦略」に着目すれば、インターネットによって、世界中の人々をターゲットにすることや高島屋との契約によって、確実な顧客を獲得することに気付くことになります。ねらいから、何をどう考えるかを焦点化することによって、子どもは、じっくりと思考することができると思います。それが「学び合いシート」の意図です。

「社会の仕組み」という話が出ましたが、これは、その授業で教えたい内容です。授業の中で取り上げた素材（教材）から見せる社会の有り様のことです。今回の授業では、古川さんのインターネットや大手デパートとの契約等による戦略から、多くの顧客を獲得し、よりよい品質の米を提供しようとしている米農家の姿ではないでしょうか。この仕組みと古川さんの「漢方未来米」に対するこだわりとともに取り上げれば、「農家の工夫や努力」となると思います。（吉岡先生の意に沿っていなければ、申し訳ありません。）

5年の先生方の教材に対する思いは、すばらしいと思いました。教材に惚れ、人とつながりながら、一つの問いを追究していく営みこそが、社会科授業の醍醐味だと思えます。今回、それを実践されたのではないのでしょうか。ありがとうございました。